

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！
地域医療を守る共同行動
みやぎ連絡会
News

2023.7.6.FRI No.144

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18 (民医労内)
Tel 022-782-0633 / FAX 022-782-0634

= 4病院再編統合・移転問題 =
「私たちのことは、私たち抜きに決めないで！」
地域の包括ケアが壊れるのがもっとも問題
富谷市移転は到底認められない！
緊急討論会には105名が参加！



7月1日（土）村井知事が進める4病院再編構想に反対する患者や医師ら105名が集い「緊急討論集会」が宮城野区文化センターで開催されました。

問題提起として精神医療に関わる2名の医師からの発言では、県が4月に示し医療コンサルタントの報告書を「地域特性を分析していない」と批判し、「富谷市移転で県の財政負担はさらに増す」ことも指摘され、「長年かけて築いてきた地域の包括ケアを自ら捨てていいのか」と県立精神医療センターの富谷市移転に反対の意見を述べました。また、県精神保健福祉審議会の位置づけや議論にも触れた意見も出されています。

会場から、精神医療ユーザーが「精神医療センターの移転の問題は病院の利用者のことを全く考慮せずに進んでいる。精神医療は地域医療であることを理解すべきだ」という意見や、6月末に労災病院と日赤病院の本部に要望してきた報告などの発言がありました。

みやぎ県政だより令和5年7・8月号

特集1 仙台医療圏の病院再編持続可能な医療の提供に向けて
※県側の一方的な主張となっていますのでご注意ください。

MIYAGI みやぎ県政だより

令和5年 
[2023年]
7・8
月号



<https://www.pref.miyagi.jp/documents/46672/p4-7.pdf>



知事コラム
村井が走る



なぜ今、 病院再編が必要なのか

仙台医療圏は県内四つの医療圏の一つで、仙台市を中心に6市7町1村で構成しています。私は先の知事選挙で、東北労災病院と県立精神医療センターを合築して富谷市に、仙台赤十字病院と県立がんセンターを統合して名取市に移転新築する構想を打ち出しました。これは唐突な思い付きではなく、時間をかけ県立病院の在り方を有識者に検討していただき、高齢化が進み合併症(いろいろな病気の併発)への対応が必要だということから総合病院と一つに(あるいは隣接)することが望ましいという結論に基

づいたものでした。また、私が知事に就任する以前から抱えていた大きな課題として、仙台市への総合病院の集中が挙げられ、特に救急搬送の面で問題がありました。救急搬送の遅れは命に関わりますが、宮城県は他県に比べ救急搬送時間が長く、とりわけ県南の沿岸市町と黒川郡では時間がかかっており、その対応が喫緊の課題でした。以上のようなことを総合的に勘案し、名取市と富谷市にそれぞれ総合病院をつくる方向で検討を進め、2月には令和5年度中の合意を目指すこととする確認書をそれぞれの本部(本社)と取り交わしました。この大きな方針のもと、今後は患者さんや病院関係者の皆さんなどと意見を交わしてより良い方向に進むよう努力したいと考えています。ぜひ関心を持って見守っててください。

宮城県知事 村井 嘉浩

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/46672/p2-3.pdf>



(注 / 報道記事転載の為、組織内資料扱)

2023年6月23日 河北新報



再編構想への反対意見が相次いだ討論会

精神医療センター―富谷移転

「地域包括ケア壊す」

医師ら構想撤回求める

仙台で討論会

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想に反対する患者や医師らが1日、構想の問題点を話し合う討論会を仙台市宮城野区の区文化センターで開いた。県立精神医療センター(名取市)

の富谷市移転については、名取の地域包括ケアを壊すとして撤回を求めた。約80人が参加。県精神科病院協会の岩館敏晴会長は、県が4月に示した新病院の方向性に関する医療コ

ンサルタントの報告書を「地域特性を分析していない」と批判。「長年かけて築いた(作業所など)社会資源との連携をあえて自ら捨てていいのか」と精神医療センターの移転に反対し

た。
再編構想では、精神医療センターと東北労災病院(青葉区)を合築して富谷市に新病院を整備する。身体疾患と精神疾患の合併症への対応が充実するとされるが、岩館会長は「病院の運営主体が違うのに、『隣り合っているから連携できる』というのは理想主義的に過ぎる」と疑義を呈した。県精神神経科診療所協会

の原敬造顧問は、自身が委員を務める県精神保健福祉審議会が再編構想について議論した経過を報告した。
精神障害の当事者でつくる市民団体「みやぎユーズアスアクション」の原田幸一さん(48)は「精神科医療は患者の地域生活を支えるためであるということに対し、県はあまりにも無理難題だ」と訴えた。



精神医療センター富谷移転の撤回求める 医師ら仙台で討論会「地域包括ケア壊す」

<https://kahoku.news/articles/20230701khn000066.html>

2023年7月2日 河北新報

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想に反対する患者や医師らが1日、構想の問題点を話し合う討論会を仙台市宮城野区の区文化センターで開いた。県立精神医療センター（名取市）の富谷市移転については、名取の地域包括ケアを壊すとして撤回を求めた。

約80人が参加。県精神科病院協会の岩館敏晴会長は、県が4月に示した新病院の方向性に関する医療コンサルタントの報告書を「地域特性を分析していない」と批判。「長年かけて築いた（作業所など）社会資源との連携をあえて自ら捨てていいのか」と精神医療センターの移転に反対した。

再編構想では、精神医療センターと東北労災病院（青葉区）を合築して富谷市に新病院を整備する。身体疾患と精神疾患の合併症への対応が充実するとされるが、岩館会長は「病院の運営主体が違うのに、『隣り合っているから連携できる』というのは理想主義的に過ぎる」と疑義を呈した。

県精神神経科診療所協会の原敬造顧問は、自身が委員を務める県精神保健福祉審議会が再編構想について議論した経過を報告した。

精神障害の当事者でつくる市民団体「みやぎユースターズアクション」の原田幸一さん（48）＝泉区＝は「精神科医療は患者の地域生活を支えるためにあるということに対し、県はあまりにも無理解だ」と訴えた。

「4病院再編」関心57%

仙台市議選 市民に聞く



河北新報社とNPO法人メディアージ(仙台市)は、市民の声を起点に仙台市議選(21日告示、30日投票)のアジェンダ(政策課題)を探るため、共同でアンケートを実施した。仙台のま

ちについて関心があるニュースや話題を複数回答で尋ねたところ、宮城県が主導する「仙台医療圏4病院再編構想」が56・9%でトップとなった。

関心があるニュースや話題の回答結果はグラフの通り。

県は、県立がんセンター(名取市)と仙台赤十字病院(太白区)を統合して名取市に、県立精神医療センター(名取市)と東北労災病院(青葉区)を合築して宮谷市に、それぞれ新病院

を整備する構想を打ち出している。4病院再編を挙げた回答者を年代別で見ると、60代と70代のそれぞれ約65%が関心を示し、40代と50代も過半数に達した。

このほか、「価格高騰(電気料金や生活必需品)」(53・7%)、「バス・地下鉄の利便性向上」(49・1%)、「都心部の再開発(電力ビル、旧さくら野百貨店仙台店跡地など)」(48・3%)、「市役所で相次ぐ事務処理

ミス」(48・3%)などが上位を占めた。市政の政策分野10項目に対する関心度は6段階で答えてもらった。「関心がある」「やや関心がある」を合わせた回答は、「健康・医療・福祉」分野が90・2



